

發行兼編輯人 川崎文治 福島縣石城郡平町字長橋町卅五番地 發行所 常磐毎日新聞社

定額 五十二日 印刷所 一〇活版所

刊夕日二十月三

洋服の豫約注文を始めるため

常〜に洋服を召す紳士の爲めに

いづれの洋服店でも三月は比較的ひまで四五月は忙がしいのが通例です。わけて今年はごんごんに忙がしいので、三月を利用して工賃を安く経済に其上職工をしてゆつくり丁寧な仕立させ御満足の上、さます様に努めます。

当店の技術は他店の追従を絶対に許しません。且つお氣に召す柄合の御選擇に不便を感じない様に心掛けて居ります。

(御一報次第店員参上)

代金は、お召しになる時頂戴します

高島屋洋服店 平町南

粹で上品な下駄を
御求めの際には
是非

平町二丁目(電話一五六番)
三井ハキモノ店

産婆看護婦 生徒募集

一 申込期日 三月三十一日マデ
一 入學資格 (高等小學卒業又は同等以上の學力を有する者)
一 卒業年限 兩科ヲ通ジテ一ケ年

平町南町
平産婆看護婦學校
電話三〇七番

東京五斯 コークス値下通知

九貫入 壹俵 壹圓六拾五錢
半トシ 拾五俵 貳拾四圓
壹トシ 參拾俵 四拾七圓

佐藤鐵工所
コークス部
電話三六二番

思想界十把一束論 (二) 不替大岳人

しかし一面弊害も亦多く時を経るに従つて堪えられなくなり、その匡正の必要上社會政策と云ふ修正的原理に進んで来た處で我々は漸く今十字街路に行き着いたのであります。つまり我々は現在其十字街頭に迷つて本道を見出さうとする思想に焦慮して居るのであります。社會主義は此の進化の道程から見ればつまり横道であります。此れに入り込めば丁度昔箱根の關所の裏

江戸前 かばやき

御註文の際は電話四二四番を御利用下されば遠近に拘らず迅速に出前へを致します

御料理 仕出し 魚 榮

平町二丁目北裏通

外交員募集

業務簡易月收百圓以上あり
各自居宅に在りて本店との連絡取れます
御希望の方は履歷書持参の上御來談あれ外に優遇の方法あり

平町南町二〇(公會堂角)
福島無盡株式會社
平町代理店 大谷保太郎商店
現物買株株式會社 電話三三四番

産婆看護婦生徒募集

修業年限 産婆看護兩科を通じて滿一ケ年
願書提出 四月八日限り

平町一丁目 電話三五七番
石城産科看護婦學校

外科 泌尿科
皮膚病 梅毒科
入院 阿部醫院
隨意 平町字新川町
電話五六七番

抜けをした馳落者の様に不幸な奮い道に跡戻りして仕舞ふのであります。折角百年の努力から歩んで来た旅程は無駄になつて仕舞ひます。さればと云つて又無政府主義は尙更の横道であつて折角の社會政策等の苦心は空しくなり行くに途なき處に彷徨ふのであります。社會政策が進んで来て十字街に立つた時今一息と云ふ眞直な本道は社會連帯の外にはないのであります。折角之迄築き上げた土臺を崩さず、更に其上に築き上げらるべき社會組織は此の外にないのであります。否、實は各國の社會原理は現

東新株 先限 實物

平町田町 電話三三三番
丸登株式會社
川添房二郎

株式買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

磐城銀行	五〇〇	時價
平銀行	五〇〇	
磐越銀行	一二五	七三〇
磐城實業	三〇〇	一〇五
田村實業	一二五	二九五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二五〇
同 新	一五〇	一八八
百七銀行	五〇〇	一六〇
同 新	一二五	五五〇
七七銀行	一二五	一六〇
郡山電氣	五〇〇	九八
同 新	二五〇	三八五
只見川電	一二五	一八〇
植田水電	一二五	七三
好問水電	一二五	一五五
磐城建物	一二五	一四五
磐城製菓	二〇〇	五五
平信託	五〇〇	六〇
磐城勸業	一二五	三五〇
植田物産	三〇〇	一三五
平製水	二五〇	二八〇
好問軌道	五〇〇	二五〇
入山新	五〇〇	三五〇
小田炭礦	二五〇	一七〇
磐城炭礦	五〇〇	一〇〇
同 新	二二五	四三〇
磐城セメント	五〇〇	一九〇
同 新	二五〇	七三〇
平運送	一二五	三八〇
同 新	一二五	八〇

代以來社會連帯主義の本道に既に一步を八れて居ると見るのが正常なのであります。現に此の原理は大戦後社會思想が混亂すればする程其光輝を發して最近文明諸國の大勢を爲さんとして居る徴候が看取されるのであります。

果して私の云ふ通りであるとしたらば我國に於ける社會連帯思想の現在はどうでありませうか、前に述べた様に維新以來歐米諸國に則つて略ぼ之に似寄つた個人主義社會政策の進化を遂げて来たのであります。

郷黨の成功兒!

製薬王星一氏出馬か

事の意外に憲派顔色蒼然

石城政界の風雲急也

石城の憲派から飛んで出た比佐昌平氏は聞歴に見るべきものなく身如何に貧也と雖も激濁たる意志の處有者たる新人であるの故を以つて意外の

同情者

あり殊に彼れが地盤の開拓に心血を注いだ山の手方面の勢力あなごり難きものある爲め此若武者に對抗する政友派は本郡が同派の金城鐵壁であるを夢みて安閑たるを得ない處から昨報の如く最高幹部が額を集めて

候補者

の物色に取りかかり何人かに白羽の矢を立てたと傳へられて居る、果して何人が立つか?盛んに指摩憶説が稱へられて居るから容易に付度を許さな

自身

が製薬王を以つて任ずる如く藥九層倍の掛げ値を差し引くと雖も世界に其偉名が赫々たるはまぎれもない事實であるから若し風雲急にして星氏が馬を陣頭に進む次第となれば貧乏を一枚看板とした比佐氏は旭陽の前のモグラモチ同然なる

運命

に遭遇する事は勿論である、満を持して放たない大政黨の襟度一悪く

廿一町五反であるが

は逐年増加を示して居るもまだ、改善の餘地があるので郡當局としても縣の方

平町水道の條例違反者續々處分さる

極貧者に除外例を設けねば

平町水道部にては給水者にあらざるものにして他より鍵を借り水道を盗用する者ある爲め是れに對し嚴重なる處分を加へんと數日來取調中であつたが既に

江名に造船

資本十五萬圓

縣下漁業の中心地である江名濱にては一昨年吉田正雄氏其他發起にて仲の作鐵工所を設立したが更に同地の發展に連れて内容擴張に迫られ資本金十萬圓の磐城造船鐵工株式會社を創立する事となり株式募集中であるが創立の曉には現在の仲の作鐵工所を合併し十五萬圓の會社と爲す計劃である

川前國有林

七十町焼く

損害は千圓

放火の疑ひ

石城郡川前村地内國有林から十一日午後十時頃火を發して七十町歩を焼失し損害千圓と目され放火の疑ある此奴泥棒だぞ

偽りの訴へ

反つて傷害罪

石城郡湯本町宇天王崎居住同郡小名濱町生れ飲食店小野恒吉(三)は去月十四日午後八時頃同郡植田町宇添野植田高次が窃盜せんとせるを捕へたとて散々同人を毆り付け駐在所に訴へ出たが盗まんとした等は眞赤な嘘で毆つたのが本當であつた爲め反つて傷害罪で平署に引致され柴田警部補取調への上本日書類を檢事局送り

櫻の宣傳

海岸線隨一の稱を得た平町松ヶ岡公園の櫻を一般に紹介する爲め平町役場にては常磐線は水戸原町間平郡線では郡山迄の各驛に櫻のポスターを配付し大いに宣傳する山

眞面目な問題

性慾

育(九七)の任務

解剖てきに見て女性の形體には丸みがあり、柔かみがあり、生理特きに女性には妊娠、哺育の任務を圓滑に行ふべき特別の用意ある解剖てき並に生理てきの女性の特徴はその心理上にも顯はれねばならぬ。女性の心理を解釋するには女性の身體てき機能の方面から考察するを寧ろ便とする、卵細胞は女性の中核である。女性は卵細胞の容器である。卵細胞を中心として凡ての女性てき活動が行はれて居るものと考へて差支ない。而して卵細胞は之を目して一個の獨立した生體となすことも出

平町附近に砲彈雨

但し將校團の演習

堀田少將視察

福島聯隊區將校團は十三日午前十時平驛に集合して統裁官勅使河原步兵中佐指揮の下に演習を試みる筈であるが當日は司令部附堀田少將も是れが視察の爲めに來平する筈であつて當日の想定に依れば敵の一縱隊が磐城街道を南進中にて既に歩兵の先登は下江田附近に達したのであるが味方の前衛騎兵の主力は目下中平窪に於て酢釜横山高地に在る敵

春の清遊

二泊の豫定

平消防組

平町消防組にては井上組頭以下各幹部及び鈴木堅助明智淺吉の兩顧問を加へ十四日午前二時發上り急行にて阿見飛行場を見學し成田田取を歴遊參拜、水船湖來に一泊翌十五日は鹿島に詣り水戸に至り公園の梅を賞し同地に一泊十六日歸平すと

收葉量激增

石城の桑園は

全力を傾注し

春蠶の掃立も近くなつたが最近の本郡内に於ける桑園の狀況は總反別は一千三百

不平受付

投票募集

活動の入場券

平町青年團にては平館來週最後の日に活動寫眞會を催す爲め二千人分の入場券を賣り付け付るさうですが若し夫れを買つても満員で這入れぬ場合は金を返すのですか

不平受付

大森團長の答

其催しに就いては根本幹事に委せてあるので私によく解りませんが二千人分賣れるかどうか疑問でせう、又催しの主旨としては基本金募集の一方法なのですが若し満員で這入れぬ場合は……さうですそれ

平人事町

出生

死亡

大工町 神高次郎氏長男光男
新川町 藤川安吉氏長女セツ子
古殿治町 眞田禮一郎氏八男
白銀町 荒木忠次氏三女キヨ子
南町 船水豊次氏長男義夫
堂ノ前 内田平三郎氏次男隆二

入場無料

帝國館

期日 十三日夜六時より
會場 帝國館
讀者招待券
此券一枚御一人限り
常磐毎日新聞社

頭痛の種は

春肥購入資金

肥料購入に就いては

各地方舊來からの慣習あるが、石城地方では秋の收穫期に翌春の金肥と交換の意味で米を渡し春になつて肥料を借り

方法が

従來多く行

はれて居た、此方法は利子も高く又秋の生産期は米價の安い時で農家は二重の不利益を蒙つて居た、而し此制は近來農民の自覺に依つて漸次改善されつゝあつたが昨年來經濟不況の結果中農以下の農民は昨秋